

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスセンターはくほう つみ木			
○保護者評価実施期間	R6年 11 月 4 日 ～ R6年 11 月 30 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45人	(回答者数)	45人
○従業者評価実施期間	R6年 11 月 4 日 ～ R6年 11 月 30 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1 月 14 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	病院併設の事業所の為、緊急時対応に安心感がある。	急な体調不良、ケガなどに即対応してもらえるように体制を整えている。 年2回の避難訓練時、病院のロビーや2階などを避難場所に行っている。それに加え、病院の災害訓練に参加している。	どんな緊急なことでも、職員全員が同じ対応ができるように情報共有を徹底し、日頃から意識付けをしておく。
2	専門性のある職員（PT・OT・ST・保育士・児童指導員）の充実により、多職種連携で協働できる。	立場・目線が異なる者同士が、共通の目標や目的に向かって対等な関係性のもと、個に対する支援を組み立てている。	個を取り巻く環境、個のアセスメントリストを踏まえて、アプローチの方法を多職種で連携して支援に活かしていく。
3	個別・集団の療育を組み合わせた支援に加え、季節の行事レクリエーションの充実。 個々の特性・個・保護者ニーズに寄り添った支援が図れる。	個の特性、集団での状況など評価しながら、簡単なゲームや視覚からアプローチした遊びなど、楽しい雰囲気の中で取り組んでいる。遊びから成功、失敗体験を経験し、自分に自信をもちたり、振り返りで反省したりと思いを表出できる場をたくさん準備する。	集団の中で、個の強みが発揮できる場の提供。リーダー的な動きの認識、周りへの配慮なども視野に入れていく。 個の思いをどんな場でも表出できる力を身に付けていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設周辺が車道のため、送迎の乗降などに危険リスクがある。	国道からつみ木に出入りするドアが開けっぱなし状態が多い。利用者様が歩道へ飛び出そうとする事も多い。	つみ木の出入り口のドアの開閉を徹底する。 利用者様と必ず手をつなぎ移動する。
2	送迎希望者が増え、送迎に人・時間を要する。	送迎は要相談としているが、送迎に人・時間をさいている事実あり。現状、保護者様の就労のための支援も必要不可欠である。	無理のないように、送迎が家族様でできる時はお願いする。 送迎車の契約更新時には、台数や大きさなど相談していく。
3	学校や家庭などで感染症が流行すると、欠席者が増える。	感染症の流行を早めに察知できるように聞き取りするが、ノーマスクの環境下にあるため感染が流行しやすい。	風邪症状のある方が本人及び家族にいる場合、早めの受診を促す。薬の服用等は、知らせて頂き個々の体調をしっかりと把握する。感染症の流行時はできるだけマスク着用をお願いする。